

令和4年度 郷中遺跡 発掘調査の成果（概要報告）



調査の経緯

交差点改良工事（一般県道斎藤羽黒線）に伴う郷中遺跡の事前調査として、令和4年度は8月上旬から9月中旬までの期間に、上小口交差点の北西側（22Aa・22Ab区）と北東側（22Ba・22Bb・22Bc区）の調査区に分割して合計370㎡の面積について行いました。

22Ab区 堅穴建物の検出状況／東から撮影（086SI、黒色土の範囲）
雨降りだけでなくとも周囲から湧水があり、ポンプで排水しながらの作業でした

調査成果（概要）

丹羽郡大口町は犬山扇状地の東南部に位置し、郷中遺跡は五条川右岸の標高約33mの沖積地微高地に立地しています。

今年度の調査では、上小口交差点西側の調査区（A区）で、石器や縄文土器とともに堅穴建物、溝、土坑などの遺構や、中世・近世の陶磁器片を含む溝などが見つかりました。

なかでも縄文時代中期後半（5,000年～4,500年前頃）を中心とした時期の堅穴建物（086SI）は、直径が8mほどもあり、一般的なサイズと比較すると特段に大きい円形に近い形状として確認されました。周辺を含めて検討したところ、堅穴建物の床面壁ぎわに設けられる溝（壁溝）が少しずれるように2条が並んで認められたほか、すぐ隣には一段高い位置にも別の堅穴建物の床面があり、こちらでも2条の壁溝が確認されました。見つかった大型の堅穴建物（086SI）の形状は一つの堅穴建物ではなく、複数時の建物が重なった痕跡でした。つまり、ほぼ同じような場所で、建て替えや拡張などが繰り返し行われていたと考えられるのです。

このほかにも、貯蔵穴と思われるやや大型の土坑（085SKや094SK）が近接して設けられるなど、ここが居住や様々な活動のために都合の良い場所であったことがわかります。周辺に広がる集落について、大きな手掛かりが得られました。



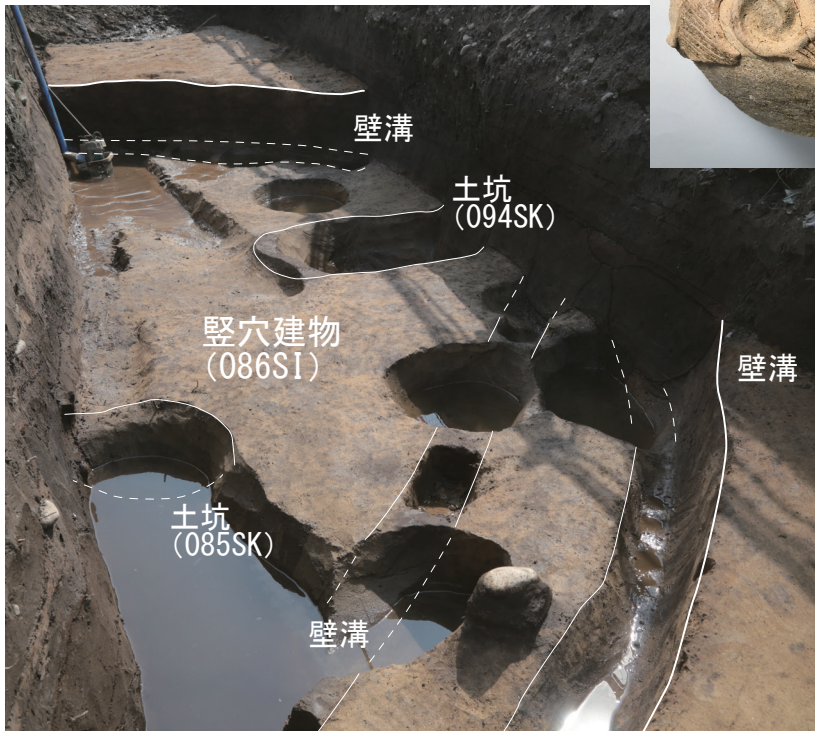
上：土坑（094SK）出土土器片
下：土坑（085SK）縄文土器 出土状態



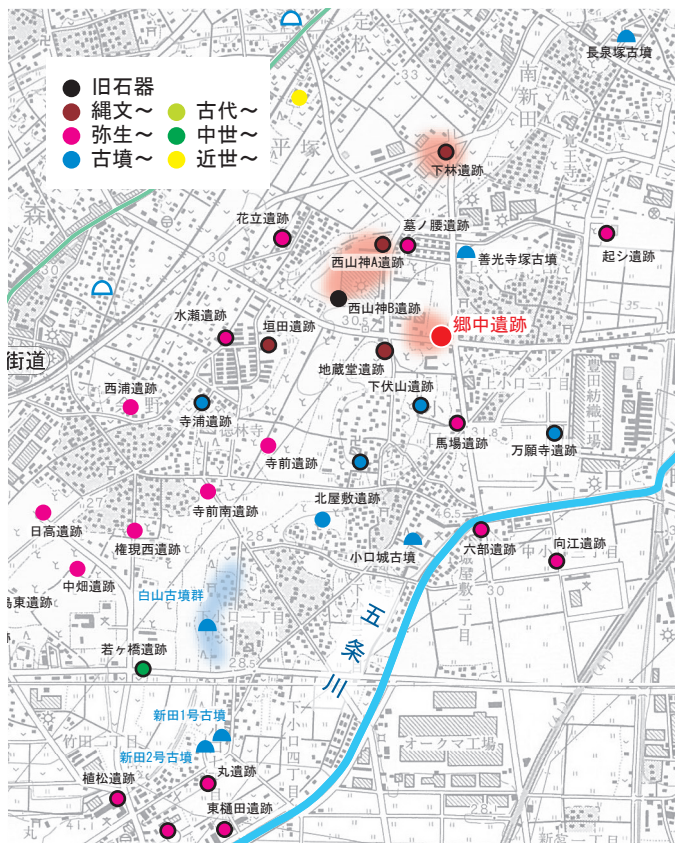
土坑 (094SK)
縄文土器深鉢 出土状態



← ↑ 深鉢上部 (094SK)
↓ 土坑直上 (087SD) 出土土器



壁溝
土坑 (094SK)
竪穴建物 (086SI)
土坑 (085SK)
壁溝



郷中遺跡周辺の遺跡分布 (地図縮尺 1/50,000)



剥片 (下呂石) 石匙 (安山岩) 搔器 (チャート)

今回の調査地点から半径 300m ほどの距離に分布する縄文時代の遺跡には、北側の消防署の辺りに下林遺跡、西側の工場敷地の辺りに西山神遺跡が知られています。

これまで出土遺物から想定されてきた中期の集落の存在が今回の調査によって確実となり、遺構に伴う石器や土器など貴重な資料が新たに加わることになりました。

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
<http://www.maibun.com>

調査支援 株式会社 文化財サービス